



2022年 12月 1日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ピ ア ズ  
代 表 者 名 代表取締役社長 桑野 隆司  
(コード番号：7066 東証グロース)  
問 合 せ 先 取締役管理本部長 栗田 智代  
( TEL. 03-6811-2211)

(訂正)「2022年9月期 決算補足説明資料」の一部訂正について

2022年11月11日に公表いたしました「2022年9月期 決算補足説明資料」につきまして、一部訂正すべき事項がございましたので、下記のとおり訂正いたします。

記

1. 訂正の理由

本日公表の『(訂正・数値データ訂正)「2022年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について』でお知らせしたとおり、「2022年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の提出後の監査法人による監査過程におきまして、記載内容に一部訂正が生じたので、「2022年9月期 決算補足説明資料」についても当該数値に関する箇所を訂正いたします。

2. 訂正の内容

詳細は別紙をご参照ください。訂正箇所は下線を付して表示しております。

以上

## 通期計画と実績値の差異について



3Qに実施したM&Aの連結が開始したことから、売上高が増加。  
利益面においては、一部の販管費が未消化となったことなどから計画値よりも上振れて着地。

(単位：百万円)	修正計画 (2022/5/13公表)	実績	計画対比	
			差異	達成率
売上高	3,490	3,793	+303	+8.7%
営業利益	40	76	+36	+90.8%
経常利益	63	84	+21	+34.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	37	67	+30	+83.0%

2

## 通期計画と実績値の差異について



3Qに実施したM&Aの連結が開始したことから、売上高が増加。  
営業利益、経常利益においては、一部の販管費が未消化となったことなどから計画値よりも上振れて着地。  
当期純利益においては、暗号資産の評価損および固定資産の減損損失を計上したことからマイナス。

(単位：百万円)	修正計画 (2022/5/13公表)	実績	計画対比	
			差異	達成率
売上高	3,490	3,793	+303	+8.7%
営業利益	40	55	+15	+37.8%
経常利益	63	71	+8	+13.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	37	△101	△138	＝

2

## 各段階利益の差異要因



各段階利益の業績予想と実績の差異要因は以下のとおり。

### 営業利益 (計画対比: +36百万円)

- 採用およびM&Aに関する一部費用が未消化となったことから販管費が減少

### 経常利益 (計画対比: +21百万円)

- 上記に加え、修正計画公表後に実施をしたM&Aに伴う資金借入を実行したことから、支払利息が増加

ご参考: 2022年5月30日付「[資金の借入に関するお知らせ](#)」

### 親会社株主に帰属する当期純利益 (計画対比: +30百万円)

- 上記に加え、株式会社メタライブの吸収合併を行い、繰越欠損金を引き継いだことから法人税等が減少した一方、固定資産の減損損失を計上

ご参考: 2022年8月12日付「[完全子会社の吸収合併 \(簡易合併・略式合併\) に関するお知らせ](#)」

4

## 各段階利益の差異要因



各段階利益の業績予想と実績の差異要因は以下のとおり。

### 営業利益 (計画対比: +15百万円)

- 採用およびM&Aに関する一部費用が未消化となったことから販管費が減少した一方、貸倒引当金繰入額および商品評価損を計上

### 経常利益 (計画対比: +8百万円)

- 上記に加え、修正計画公表後に実施をしたM&Aに伴う資金借入を実行したことから、支払利息が増加

ご参考: 2022年5月30日付「[資金の借入に関するお知らせ](#)」

### 親会社株主に帰属する当期純損失 (計画対比: △138百万円)

- 上記に加え、株式会社メタライブの吸収合併を行い、繰越欠損金を引き継いだことから法人税等が減少した一方、暗号資産の評価損および固定資産の減損損失を計上

ご参考: 2022年8月12日付「[完全子会社の吸収合併 \(簡易合併・略式合併\) に関するお知らせ](#)」

4

## 2022年9月期 通期業績 (前年同期比)



オンライン接客サービスの伸びに加え、3Qに実施したM&Aの業績貢献により大幅増収。  
前期比では減益となったものの、4Qにて黒字転換。

(単位：百万円)	2021年9月期 連結累計期間	2022年9月期 連結累計期間	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	3,130	3,793	663	+21.2%
営業利益	101	76	△24	△24.6%
経常利益	137	84	△52	△38.5%
親会社株主に 帰属する当期純利益	52	67	15	+29.9%

5

## 2022年9月期 通期業績 (前年同期比)



オンライン接客サービスの伸びに加え、3Qに実施したM&Aの業績貢献により大幅増収。  
特別損失の計上により当期純利益が赤字となるが、営業利益、経常利益については4Qにて黒字転換。

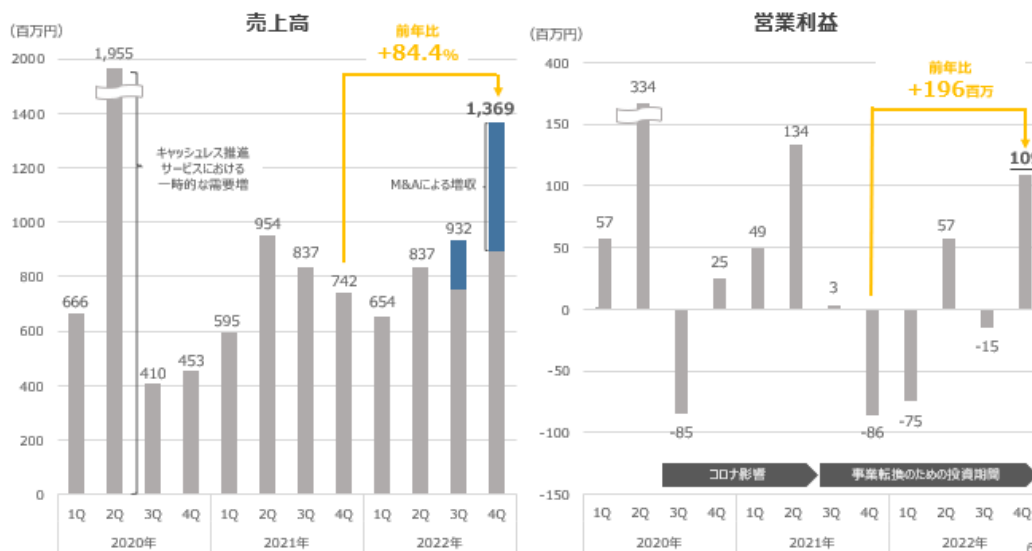
(単位：百万円)	2021年9月期 連結累計期間	2022年9月期 連結累計期間	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	3,130	3,793	663	+21.2%
営業利益	101	55	△46	二
経常利益	137	71	△65	二
親会社株主に 帰属する当期純利益	52	△101	△154	二

5

## 四半期業績の推移



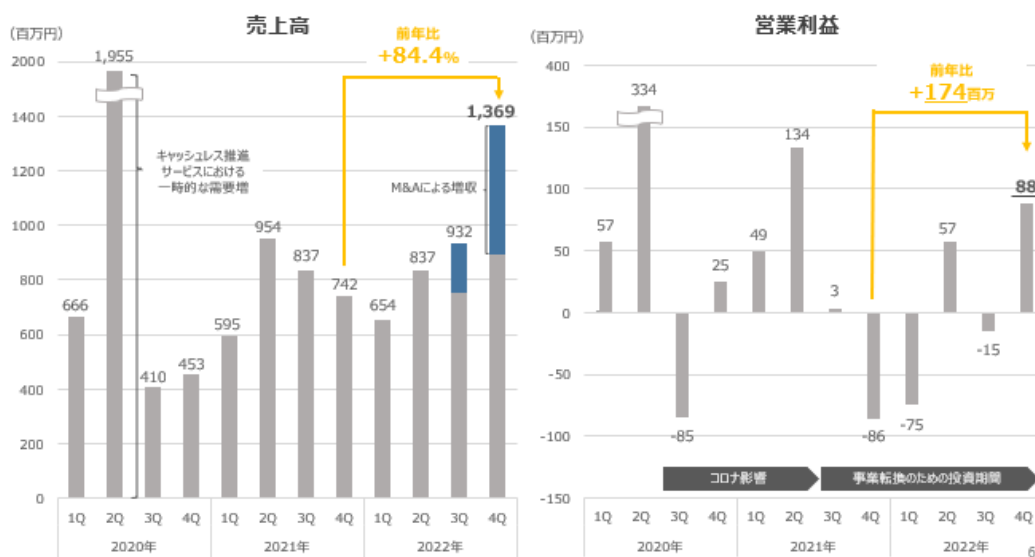
3Qに引き続き、4Qにおける過去最高売上高を更新。  
営業利益についても、オンライン接客をはじめとする既存サービスの収益改善により増益。



## 四半期業績の推移



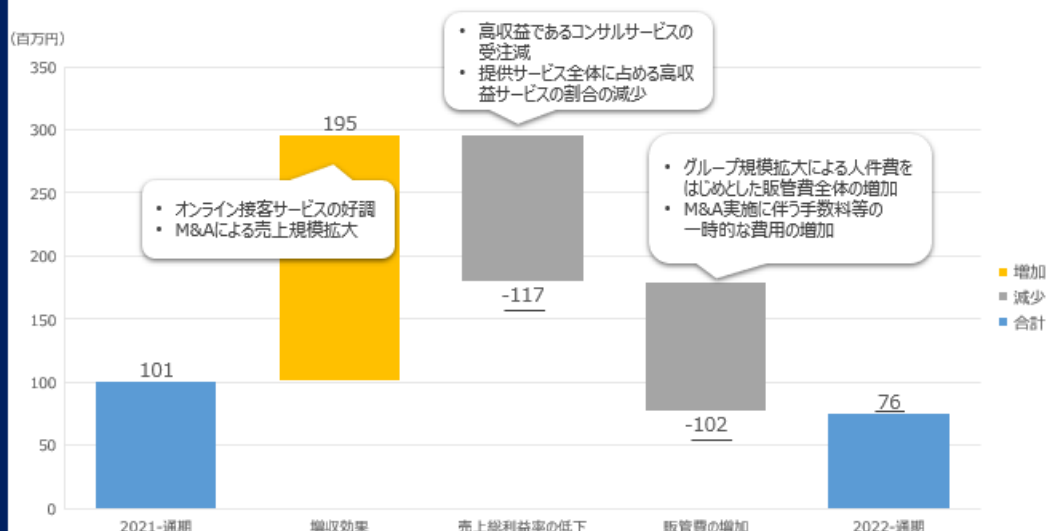
3Qに引き続き、4Qにおける過去最高売上高を更新。  
営業利益についても、オンライン接客をはじめとする既存サービスの収益改善により増益。



## 営業利益増減分析 (前年同期比)



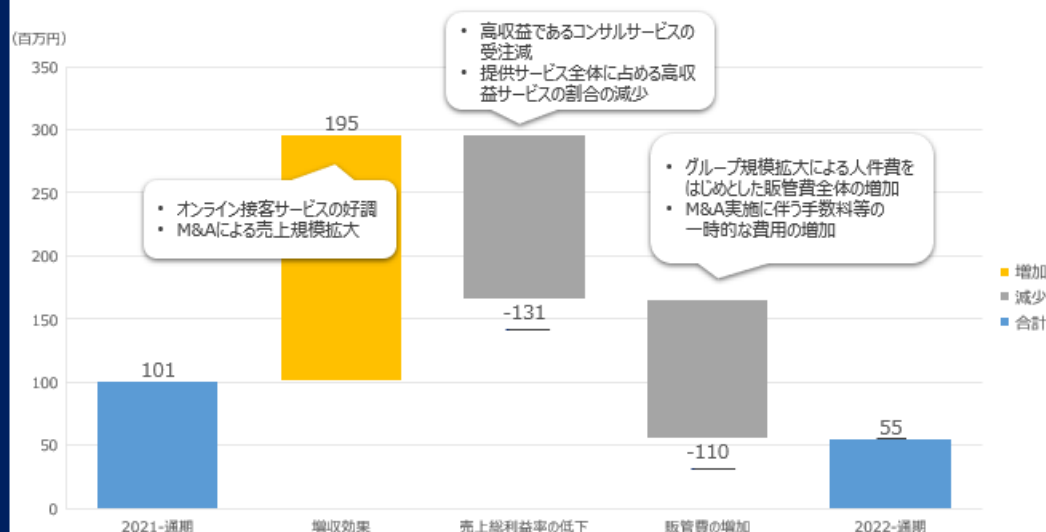
M&Aにより売上が伸長するとともに事業構造が変化したため、売上総利益率が低下。  
事業規模拡大により販管費も全体的に増加している。



## 営業利益増減分析 (前年同期比)



M&Aにより売上が伸長するとともに事業構造が変化したため、売上総利益率が低下。  
事業規模拡大により販管費も全体的に増加している。



## 連結貸借対照表



M&Aに伴い、資産・負債ともに大幅に増加。  
M&A資金の銀行借入実行により、自己資本比率が減少したものの、現預金を約23億円保有。

(単位：百万円)	2021年9月末	2022年9月末	増減額
流動資産	2,578	3,420	+841
うち現預金	1,866	2,345	+479
固定資産	439	1,106	+667
うちのれん	17	306	+288
資産合計	3,018	4,527	+1,508
流動負債	332	1,354	+1,022
固定負債	500	1,085	+585
負債合計	832	2,439	+1,607
純資産合計	2,186	2,087	△98
負債純資産合計	3,018	4,527	+1,508
自己資本比率	72.4%	46.1%	

### 流動資産

主にM&Aに伴う現預金の増加

### 固定資産

主にM&Aによるのれんの増加、RemoteworkBOX設備、自社サービスのソフトウェア資産の増加

### 流動負債

主にM&Aに伴う買収資金の銀行借入の実行および子会社2Linksにおける借入の実行

### 固定負債

主にM&Aに伴う買収資金の銀行借入の実行

8

## 連結貸借対照表



M&Aに伴い、資産・負債ともに大幅に増加。  
M&A資金の銀行借入実行により、自己資本比率が減少したものの、現預金を約23億円保有。

(単位：百万円)	2021年9月末	2022年9月末	増減額
流動資産	2,578	3,335	+756
うち現預金	1,866	2,345	+479
固定資産	439	1,022	+582
うちのれん	17	306	+288
資産合計	3,018	4,357	+1,339
流動負債	332	1,354	+1,022
固定負債	500	1,085	+585
負債合計	832	2,439	+1,607
純資産合計	2,186	1,917	△268
負債純資産合計	3,018	4,357	+1,339
自己資本比率	72.4%	44.0%	

### 流動資産

主にM&Aに伴う現預金の増加

### 固定資産

主にM&Aによるのれんの増加、RemoteworkBOX設備、自社サービスのソフトウェア資産の増加

### 流動負債

主にM&Aに伴う買収資金の銀行借入の実行および子会社2Linksにおける借入の実行

### 固定負債

主にM&Aに伴う買収資金の銀行借入の実行

8

## 剰余金の配当について



事業拡大のための投資を行うとともに、配当による株主への利益還元も重要な経営課題と認識。  
経営成績を勘案の上、例年と同程度の配当性向を維持した配当の実施を決定。

	決定額	直近の配当予想	前期実績 (2021年9月期)
基準日	2022年9月30日	2022年9月30日	2021年9月30日
1株あたり配当金	2円 72銭 (普通配当2円 72銭)	未定	4円 29銭 (普通配当4円 29銭)
配当金総額	12,325千円	-	9,951千円
効力発生日	2022年12月26日	-	2022年12月27日
配当原資	利益剰余金	-	利益剰余金

9

## 剰余金の配当について



事業拡大のための投資を行うとともに、配当による株主への利益還元も重要な経営課題と認識。  
決算短信の修正後に当期純利益が赤字となったが、特殊な事情であるため、配当金は変更せず。

	決定額	直近の配当予想	前期実績 (2021年9月期)
基準日	2022年9月30日	2022年9月30日	2021年9月30日
1株あたり配当金	2円 72銭 (普通配当2円 72銭)	未定	4円 29銭 (普通配当4円 29銭)
配当金総額	12,331千円	-	9,951千円
効力発生日	2022年12月29日	-	2022年12月27日
配当原資	利益剰余金	-	利益剰余金

9



## 2023年9月期 業績予想



オンライン接客を中心とした既存事業の成長と新規事業の複数展開による成長を見込む。  
事業環境を踏まえたM&Aの実行を検討するため、レンジでの開示。

(単位：百万円)	(参考) 2022年9月期 通期	2023年9月期 通期	前年比	
	実績	計画	増減額	増減率
売上高	3,793	5,705~7,080	1,911~3,286	+50.4~ +86.6%
営業利益	76	31~100	<u>△44~24</u>	<u>△58.3~</u> <u>+31.8%</u>
経常利益	84	2~71	<u>△82~△13</u>	<u>△97.3~</u> <u>△15.9%</u>
親会社株主に 帰属する当期純利益	67	3~65	<u>△64~△2</u>	<u>△95.3~</u> <u>△3.2%</u>
EBITDA	193	323~336	<u>129~142</u>	<u>+66.6~</u> <u>+73.7%</u>

15

## 2023年9月期 業績予想



オンライン接客を中心とした既存事業の成長と新規事業の複数展開による成長を見込む。  
事業環境を踏まえたM&Aの実行を検討するため、レンジでの開示。

(単位：百万円)	(参考) 2022年9月期 通期	2023年9月期 通期	前年比	
	実績	計画	増減額	増減率
売上高	3,793	5,705~7,080	1,911~3,286	+50.4~ +86.6%
営業利益	55	31~100	<u>△23~45</u>	—
経常利益	71	2~71	<u>△69~0</u>	—
親会社株主に 帰属する当期純利益	<u>△101</u>	3~65	<u>105~167</u>	—
EBITDA	172	323~336	<u>150~164</u>	<u>+87.1~</u> <u>+95.1%</u>

15

## サマリー



**引き続きグループの企業価値向上に向けて既存・新規事業の両軸で取り組む。**

### 3Qに実施したM&Aの業績貢献が本格開始、既存事業の収益改善による黒字転換

- 3Qに実施したM&Aの連結開始により、4Qにおける過去最高売上高を大幅更新。
- 既存事業の収益改善により、4Q単体で営業利益109百万円を計上し、黒字転換。
- 最終利益においては、3Qに買収した(株)イーフロンティアの負ののれん発生、および、繰越欠損金の引き継ぎにより法人税等が減少し、増益となった。
- 期末配当については2円72銭で実施

### M&Aへの積極投資を行う方針から、中期経営計画を取り下げ

- M&Aの取り組みを開始し、中期経営計画策定時との取り組みが大きく異なってきたため、中期経営計画を取り下げることを意思決定。
- 今後は、単年度毎の業績見通し及び中長期的な取り組みを適宜公表する。
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」に関しては、毎年12月の開示を予定。

### 2023年9月期業績予想

- オンライン接客を中心とした既存事業の成長と新規事業の複数展開による成長を見込む。
- 継続的なM&Aの検討など、事業環境を踏まえた投資を行い、成長を加速させる。

16

## サマリー



**引き続きグループの企業価値向上に向けて既存・新規事業の両軸で取り組む。**

### 3Qに実施したM&Aの業績貢献が本格開始、既存事業の収益改善による黒字転換

- 3Qに実施したM&Aの連結開始により、4Qにおける過去最高売上高を大幅更新。
- 既存事業の収益改善により、4Q単体で営業利益88百万円を計上し、黒字転換。
- 最終利益においては、3Qに買収した(株)イーフロンティアの負ののれん発生、および、繰越欠損金の引き継ぎにより法人税等が減少した一方、暗号資産評価損および固定資産の減損により減益。
- 期末配当については2円72銭で実施

### M&Aへの積極投資を行う方針から、中期経営計画を取り下げ

- M&Aの取り組みを開始し、中期経営計画策定時との取り組みが大きく異なってきたため、中期経営計画を取り下げることを意思決定。
- 今後は、単年度毎の業績見通し及び中長期的な取り組みを適宜公表する。
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」に関しては、毎年12月の開示を予定。

### 2023年9月期業績予想

- オンライン接客を中心とした既存事業の成長と新規事業の複数展開による成長を見込む。
- 継続的なM&Aの検討など、事業環境を踏まえた投資を行い、成長を加速させる。

16

## サマリー



### 「2022年9月期 決算短信」の一部訂正について

#### 暗号資産の評価損の計上

- 当初、流動性が一定量あることから、監査法人合意のもと時価評価し評価損8百万円を計上。
- その後の監査法人からの指摘により、流動性がなく活発な市場と認識されないとの判断から、処分見込価額を0円と見積る。
- 暗号資産評価損として72百万円を特別損失に計上。

#### 固定資産（ZEROレジに関するソフトウェア）における減損損失の計上

- 当初、XERO株のコスト削減による利益改善の状況から減損損失85百万円を計上。
- 監査法人から保守的に見積る必要があるとの指摘により、利益改善の傾向はあるものの事業計画を既存顧客の維持にとどめた計画に修正し、追加の減損損失84百万円を計上。

#### イーフロントティア事業における売掛金および棚卸資産

- 決算短信開示後に監査法人から、回収可能と合意を得ていた売掛金の回収可能性について回収懸念があるとの指摘を受け、貸倒引当金繰入額7百万円を計上。
- 同時期、棚卸資産についても販売の可能性を指摘され、商品評価損13百万円を計上。
- 売掛金は取引先との取引は問題なく継続があり、回収は可能と見込む。
- 棚卸資産についても、今期中に精査し販売できる商品であると見込む。